（第3種郵便物認可）　上毛新聞　1996年（平成8年）7月27日（土曜日）　社会　（20）

O157 一般家庭に拡大

伊勢崎市、勢多郡

幼児ら3人から検出

境・采女小とは別タイプ

県生活衛生課は二十六日、伊勢崎市と勢多郡の二家族四人が病原性大腸菌「O(オー)157」の疑いで入院、うち三人から同大腸菌が検出されたと発表した。同課は「O157」による食中毒事件とみて、原因食品など感染経路を調査している。県内では今月上旬と渡町下測名の采女小学校で児童、教職員百四十四人が症状を訴え、うち八十二人から同大腸菌が検出されているが、今回検出されたのは同校とは別のタイプ。全国的に被害が拡大し深刻な事態となる中、本県でも一般家庭に拡大、感染ルートは依然不明で、県は食生活に十分注意を払うよう呼びかけている。

入院しているのは、伊勢崎市が十五歳の女子（高一）、勢多郡は一歳、三歳の三姉妹。伊勢崎市の女子（小一）は発症時期から三日目に公園遊具などで遊んでいるが、小学校、高校を対象にした聞き取り調査で症状を訴える同級生がないことから、学校外での感染の可能性が強いとみている。また勢多郡の場合は二次感染の疑いは薄いと見ている。明、同一時期に感染した三歳の女児が症状を訴え、後して入院、二十六日に三歳の女児から「O157」が検出された。

症状は四人とも比較的軽症で、二校一年生以外は軟便はみられないという。同課は発症時期からみて夏休み前の感染とみているが、小学校、高校を対象にした聞き取り調査で症状を訴える同級生がないことから、学校外での感染の可能性が強いとみている。また勢多郡の場合は二次感染の疑いは薄いと見ている。明、同一時期に感染した三歳の女児が症状を訴え、後して入院、二十六日に三歳の女児から「O157」が検出された。

症状は四人とも比較的軽症で、二校一年生以外は軟便はみられないという。同課は発症時期からみて夏休み前の感染とみているが、小学校、高校を対象にした聞き取り調査で症状を訴える同級生がないことから、学校外での感染の可能性が強いとみている。また勢多郡の場合は二次感染の疑いは薄いと見ている。

「一児二人は毒素の型が異なり、発症時期が異なるなどの点から、別々に感染したとみられる。」

県内では別タイプとみられる「O157」が検出されたことを重くみた県生活衛生課は、食中毒対策小委員会を二十九日に開催し対応を協議、家庭などへのPR活動の強化など注意喚起に全力を挙げることにしている。

県、食肉の検査強化

予防対策はまめな手洗い

県は病原性大腸菌「O1 5」による食中毒を原因として疑われている食肉について、県内の畜場や食鳥処理場などを対象に国と同じ検査を実施し、二十六日までに陽性（菌の検出なし）との結果を得た。

全国的に病原性大腸菌が拡大しているが、感染源とされる食肉の検査強化を予防対策として、県生活衛生課は二十六日、安全な食肉の生産、流通体制を確保するため県中央食肉衛生検査所内に食肉衛生対策委員会を設置し、検査、監視体制の強化など食中毒の発生防止対策を進めることを確認した。

一方、県外にはプールを鎖しているが、同課は既に県内のプール百四十一施設に対して入場前の体の清潔保持や健康状況の把握などを可能な限り進めることを要請。「園は塩素に弱く、残留塩素濃度を きちんとチェックしていれば、感染源ではないかと説明している。

また、予防対策は一般的な食中毒に対するのと同じで、手洗いの徹底、監視体制を強化する。「古い食品、特に、古い肉や生肉には注意が必要。食品には七五度以上で一分間以上の加熱（ハンバーグなどは中心部まで）、熱がいるが、同課は既に県内のプール百四十一施設に対して入場前の体の清潔保持や健康状況の把握などを可能な限り進めることを要請。「園は塩素に弱く、残留塩素濃度を きちんとチェックしていれば、感染源ではないかと説明している。

また、予防対策は一般的な食中毒に対するのと同じで、手洗いの徹底、監視体制を強化する。「古い食品、特に、古い肉や生肉には注意が必要。食品には七五度以上で一分間以上の加熱（ハンバーグなどは中心部まで）、熱がいるが、同課は既に県内のプール百四十一施設に対して入場前の体の清潔保持や健康状況の把握などを可能な限り進めることを要請。「園は塩素に弱く、残留塩素濃度を きちんとチェックしていれば、感染源ではないかと説明している。

こうした中で、県生活衛生課は二十六日、安全な食肉の生産、流通体制を確保するため県中央食肉衛生検査所内に食肉衛生対策委員会を設置し、検査、監視体制の強化など食中毒の発生防止対策を進めることを確認した。

一方、県外にはプールを鎖しているが、同課は既に県内のプール百四十一施設に対して入場前の体の清潔保

「大学生紹介」と教材売りつける

受験生狙う悪質業者

家庭教師めぐり苦情続出

地元大学生による家庭教師のあっせんを持ち掛け、高額な補助教材を売りつける業者が県内で横行していることが知られた。なかには学生が利用されていることを知らずに業務に携わっていることもある。夏休みは、受験勉強に本腰を入れる中高生などを狙って悪質な勧誘が増える時期。県消費生活センターには四月以降、家庭教師に関する苦情相談が四件寄せられ、同センターは「疑わしい勧誘をきっぱり断ってほしい」としている。

同センターによると、中学三年生男子を持つ伊勢崎市の家庭に業者から三月上旬、「地元大学生の家庭教師を紹介する」と電話があった。入会金二万五千円を支払って契約したところ、当日は不要と言われたテキストを購入するよう勧められ、代金約六十万円を請求された。授業料は月四回で月額一万五千円。

業者名の一部に使われることの多い群馬大学には、一昨年から二十数件の苦情が寄せられている。業者は「家庭教師の時給は中高生で千八百～二千五百円が基準で、教材などの販売は一切させていない。また学生が悪質な業者にかかわらないよう、節度ある行動を喚起する掲示を貼りだしたことがある。

群馬大学は、家庭教師などが学生アルバイトをあっせんする際は紹介状を学生に持たせ、依頼者との面接を経てから正式な契約を結ばせる。家庭教師の時給は中高生で千八百～二千五百円が基準で、教材などの販売は一切させていない。また学生が悪質な業者にかかわらないよう、節度ある行動を喚起する掲示を貼りだしたことがある。

群馬大学は、家庭教師などが学生アルバイトをあっせんする際は紹介状を学生に持たせ、依頼者との面接を経てから正式な契約を結ばせる。家庭教師の時給は中高生で千八百～二千五百円が基準で、教材などの販売は一切させていない。また学生が悪質な業者にかかわらないよう、節度ある行動を喚起する掲示を貼りだしたことがある。

業者は「教材を求める人が増加していることもあり、群大学生部は学生が「一部の業者とはいえ、子供の成績をアップさせたい」と願う親心につけ込んだ悪質な行為を強く警戒している。

ピカソの2作品公開

県立近代美術館

高崎市�町の県立近代美術館は、ピカソ自身が糸の染め色まで指定した十六枚から、今年購入した「ゲルニカ」のタペストリーを展示するなどピカソの作品二点を一般公開した。

作品はピカソのキュビスム（立体派）期に描かれた傑作をしのばせる。購入作品は一九五五年製、八三年製に続く三作目で、ピカソの死後完成した。取得価格は九千六百万円。

同美術館がピカソ作品のタペストリー。所蔵するのは初めて。

「ゲルニカ」は縦三・五メートル、横七・八メートルの大作。「ゲルニカ」の原画は、ピカソが第二次世界大戦中、ナチスドイツの爆撃で焦土と化したスペインの古都ゲルニカの惨状を描いた作品。

「ゲルニカ」のタペストリーは、ピカソ自身が糸の染め色まで指定し、ほぼ原寸大に制作させたもので、反ファシズムの象徴として知られる同作の最高傑作をしのばせる。購入作品は一九五五年製、八三年製に続く三作目で、ピカソの死後完成した。取得価格は九千六百万円。

同美術館がピカソ作品のタペストリー。所蔵するのは初めて。

「ゲルニカ」は縦三・五メートル、横七・八メートルの大作。「ゲルニカ」の原画は、ピカソが第二次世界大戦中、ナチスドイツの爆撃で焦土と化したスペインの古都ゲルニカの惨状を描いた作品。

また、